石巻専修大学
●「石巻専修大学」ホームページ● http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

代表電話番号
0225(22)7711
広報専用FAX
0225(22)7809

石鳳祭2014
イベント多彩に
にぎわうキャンパス

▶ メインステージでは豪華景品をかけた学生参加ゲームなどが行われた

▶ 活況だった「地場産品フェア」

「石鳳祭2014」が10月11、12日の2日間にわたって開催された。25周年の節目を迎えた今回のテーマは「innovation～革新～」。当日は好天に恵まれ、在学生、卒業生をはじめ、家族連れなど多くの方々が来場し、キャンパスは大いににぎわった。

開会に先立ち、オープニングセレモニーが行われ、阿部里紗実行委員長（経営3・宮城県石巻西高）があいさつ。坂田隆学長、甘竹秀雄専修大学校友会長、小松浩行石巻専修大学育友会長の祝辞の後、祝砲が鳴り響き、大学祭がスタートした。

学生会館前に設置されたメインステージでは、「美男美女決定戦」などの実行委員会による企画に加え、11日にはお笑い芸人「響」さんのコントライブが行われるなど、大盛況だった。また、森口記念館では吹奏楽研究会や合唱部などがパフォーマンスを披露した。

体育館で行われた「石鳳祭コンサート」のゲストは影山ヒロノブさんと遠藤正明さん。アニメソング界を代表する2人の熱唱に、会場は熱気に包まれた。

キャンパス内にはゼミや研究室、サークルなどによるさまざまな模擬店が立ち並んだほか、地場産品フェアやフリーマーケットなども実施された。25周年特別企画として「模擬店グランプリ」が開催され、現代芸術研究会の「玉コンニャク」がグランプリに選ばれた。

開設3年目を迎えた「石巻ワンセグ」も石鳳祭に貢献。記念すべき放送100回目のゲストに声優の矢島晶子さんを招いて、公開収録を実施し、祭りに彩りを加えた。

人間学部　研究発表会
来場者による投票も

石鳳祭に合わせて、人間学部が初の学外向け研究発表会を開催した。

2年次生必修科目「基礎総合演習Ⅱ」の取り組みの一環として行われたもので、半年間にわたって取り組んできた研究成果12件を発表。学生の家族や一般の方々、高校教員など2日間で延べ200人以上が来場し、盛況だった。会場となった2号館の2教室には成果をまとめたポスターなどが展示され、学生たちは調査結果を丁寧に説明した。

▶ 来場者からの質問に答える遊佐さん（左）

来場者による投票で1位に選ばれたのは遊佐健さん（人間教育学科・宮城県岩ケ崎高）の「感情と視覚的イメージ」。16～20歳の男女18人に喜怒哀楽に関するイメージを色や形で表現してもらった結果をまとめたもので、「喜は暖色系の色、図形だと円形の割合が多い」「図形の配置場所に差は見られない」など、感情とイメージの関連性を報告した。

他の入賞チームは次の2組（敬称略、カッコ内は所属学科・出身高校）。

▽2位＝「仮面ライダー人気の秘密～次のライダーは誰だ!!」中里愛（人間文化学科・宮城県石巻北高）、佐々木麻衣（人間教育学科・宮城県石巻西高）、川畑柊人（同・宮城県多賀城高）、後藤聡美（同・宮城県古川学園高）

▽3位＝「石巻専修大学生の出生順位と性格について」高橋花蓮（人間教育学科・宮城県石巻西高）

ホームカミングデー
OBら旧交温める

石鳳祭期間中の10月11日、卒業生を歓迎する「ホームカミングデー2014」が5号館の学生ホールで開催された。多くの卒業生が母校を訪れ、恩師や旧友と再会。思い出話に花を咲かせ、旧交を温めた。

井筒恵美さん（平14経営）の司会で行われた懇親パーティーは、坂田隆学長、甘竹秀雄専修大学校友会長があいさつ。伊東孝浩石巻専修大学同窓会長の発声で乾杯した。会場には談笑の輪が広がり、終始アットホームな雰囲気だった。

▲ 卒業アルバムを眺め思い出に浸る卒業生たち

岡野教授・川村講師の共同論文
☆会計教育学会賞に輝く☆

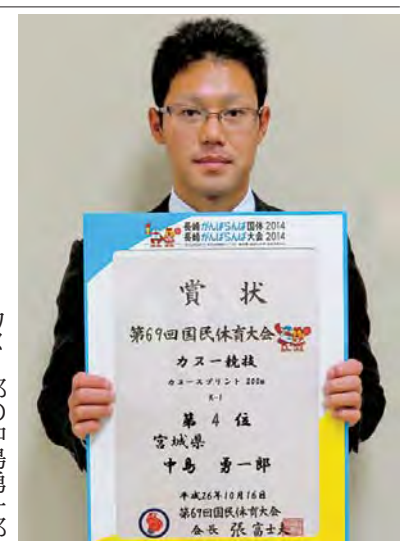
▲ 坂田学長（中央）に成果を報告した岡野教授（右）と川村講師

岡野知子経営学部教授と川村暁理工学部講師の共同論文が日本会計教育学会の「平成26年度学会賞（第1回）」を受賞した。

受賞論文は「可搬型ITデバイスを活用した簿記・会計教育の試み―東日本大震災直後に対応した会計教育法の一例として―」（『会計教育研究』創刊号、2013年）。論文では、東日本大震災直後に共同開発した簿記自習システム「Mobile DE BOKI」の学習効果を検証。携帯電話やスマートフォンなどのIT機器を活用した会計教育の可能性を示した。

震災という非常事態に速やかに対応した取り組みであり、学生になじみやすい方法だったことや、異なる分野の教員による文理融合の施策であったことなどが高く評価され、8月に本学で開催された同学会の「第6回全国大会」で賞状が授与された。

長崎国体　カヌースプリント
中島さん（理工3）が4位入賞



カヌー部の中島勇一郎さん（理工3・宮城県中新田高＝写真）が「長崎がんばらんば国体」のカヌースプリント競技（10月15・16日、諫早市多良見特設カヌー場）の成年男子カヤックシングル（200㍍）で4位（39秒45）に入賞した。

中島さんの国体出場は高校時代にカヤックフォアで出場して以来2回目。本学カヌー部からは初めてとあって、大きな期待を背負ってのレースとなった。

15日に行われた同500㍍は準決勝敗退に終わったが、翌16日の200㍍では実力を発揮。予選を難なく突破すると準決勝は38秒50の好タイムで決勝に進出した。決勝では日本を代表する選手たちと互角のレースを展開した。

中島さんは「気持ちを強く持って臨んだことが、好成績につながりました」とレースを振り返り、「入賞できたのは皆さんの応援のおかげです。来年開催されるリオデジャネイロオリンピックの選考会に向け、頑張ります」と抱負を語った。

▶ 前列右から内海、横地、佐藤、加藤さん、山本教授。後列右から3人目が川島教授

3連覇達成
学自研整備コンテスト

東北地区の大学生が自動車整備に関する知識と技能を競う「第29回学自研整備コンテスト」（10月25日、仙台市・トヨタ自動車㈱東北サービス分室、主催＝公益社団法人自動車技術会東北支部学生自動車研究会）で理工学部機械工学科・自動車工学コースの学生が1、2位を独占し、3連覇を達成した。

優勝したのは山本研究室（指導・山本憲一教授）の横地涼さん（4年次・宮城県南郷高）・内海祐真さん（4年次・宮城県石巻西高）組。学科で42点（50点満点）の最高点を記録した2人は、灯火装置・液体判別・測定・運転診断の4項目からなる実技でも安定した成績を残した。

惜しくも2位となった加藤和哉さん（4年次・宮城県迫桜高）・川島研究室（指導・川島純一教授）の佐藤頌一郎さん（4年次・宮城県石巻北高）組は実技では横地・内海組を上回り、トップの成績をマーク。日ごろの成果を発揮した。